

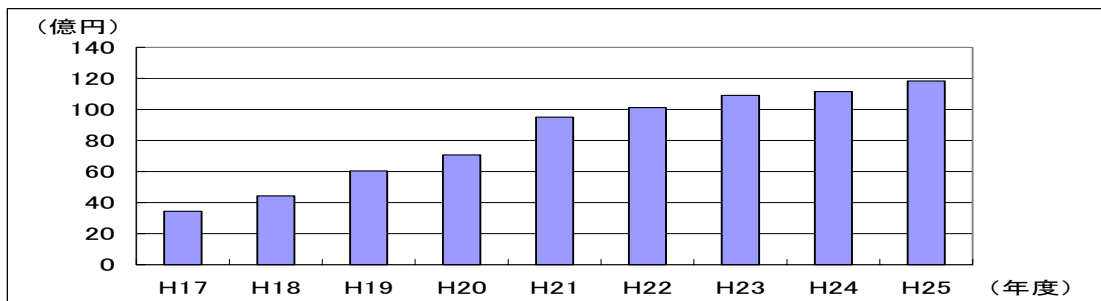
(問) 新幹線建設の負担が財政状況を悪くしているのではないですか？

(答) 新幹線建設にかかる県の総負担額は、完成した新八代・鹿児島中央間、建設中の博多・新八代間の合計で約2,100億円と見込まれています。現在、平成23年春の全線開業に向けて急ピッチで工事が進んでおり、その負担金も平成20年度は182億円、21年度も約200億円とピークを迎えます。

これまでの負担金の財源については、そのほとんどを借金(県債発行)により確保してきており、今後この返済(償還)が本格化してくる(ピーク時には100億円規模)こととなりますので、県財政にとって、重い負担であることは事実です。

また、現在の制度が決められた平成9年に比べ、本県の財政状況は格段に悪くなっており、こうした中で新幹線負担金の償還が今後本格化することから、同じような状況にある他県と連携し、国に対して財政措置の拡充を求めていくこととしています。

新幹線建設負担金に係る元利償還金の大きな見込み

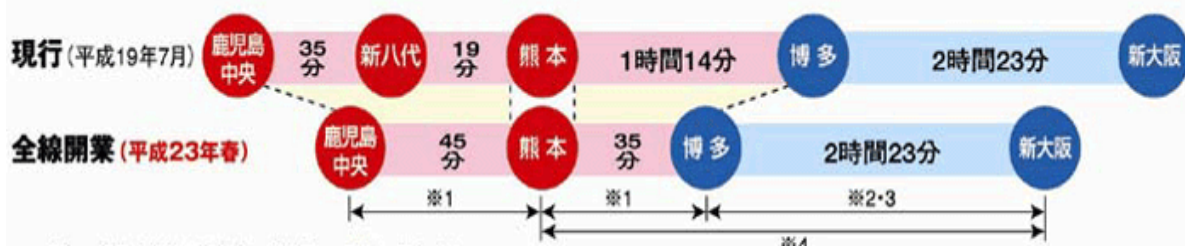


(単位:億円)

H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
34	44	61	71	95	101	109	112	118

※H18までは、実績ベース
 ※H19以降は、発行金額、借入条件等を仮定し推計したもの
 (H19,20は、償還期間を20年から30年に変更)

九州新幹線全線開業による時間短縮効果



※1 熊本～鹿児島中央及び熊本～博多間は、最速の想定時分
 ※2 博多～新大阪間は、平成19年7月ダイヤ改正時の最速「のぞみ」による所要時分
 ※3 博多駅での停車及び乗換え時分を除く
 ※4 熊本～新大阪間を最速の直通運転とした場合、3時間20分前後を想定(JR九州発表)